



高原副知事に要求書を手渡す地公三者・千葉議長(右) = 6月21日、道庁



要求書提出後の交渉・左が藤盛副委員長 原人事院総裁(右)に要求書を手渡す棚村公務員連絡会議長

6月21日地公三者は、人事委員会に、「人事院勧告等に関する要求書」を提出し、道人事委員会自らの主体性で、公務員労働者の月例給与や一時金改善など、労働組合との誠意ある対応を求めた。これに対して、道人事委員会は、「早急に適正な給与水準確保を報告で求めたい」と、給与削減措置と回答した。

地公三者共闘会議(自治労道本部、北教組、全道庁労連)は、8月上旬の人事院勧告にむけ、6月21日、道人事委員会と知事、教育長に対して要求書を出した。中央段階では6月19日に、公務員連絡会が人事院総裁に要求書を出し、夏季(人事院勧告期)のたたかいがスタートした。

2012夏季闘争

生活の維持・改善求めて

夏季(人勧期)闘争スタート



全日本自治団体労働組合 北海道本部
〒060-0806 札幌市北区 北6西7北海道自治労会館
電話 011-747-3211 FAX 011-700-2053
編集・発行 谷川 広美

毎週金曜日、赤ちゃんを抱えた母親や、仕事帰りの人たちが、自営業者らが「大飯原発再稼働」反対の声をあげ、首相官邸前に集まっている。若者の呼びかけで、はじまり数百人のデモが数万人に増加中。脱原発の潮流は止まらない。

朝風

7月は、自治労「安全衛生月間」として、快適な職場環境と労働安全衛生確立を取り組む。職場巡視も大事だ。今年の入選標語は「もう安全?」まだ改善余地は潜んでいる☆たったひとりの自分無理をしないで「健康第一」。

の具体的な圧縮等に対する要求書」を提出した。千葉議長が高原副知事に要求書を手渡し、概要を説明。独自削減措置の停止と道職員の生活を維持・改善するよう要請し、7月2日までに回答を求めた。副知事は「人件費に関しては、経緯をふまえ、十分話し合ってきた」と述べた。

中央段階では6月19日に、公務員連絡会が人事院総裁に要求書を出し、夏季(人事院勧告期)のたたかいが本格化した。道本部は、要求書提出をスタートとして自治労・公務員連絡会が提起する、全国統一行動や大衆行動に結集し、取り組みを強化していく。

さようなら原発1000万人署名

750万筆を提出!

オンライン署名 続行中!



首相官邸で藤村官房長官に署名を手渡す大江健三郎さんほか = 6月15日

さようなら原発1000万人アクション実行委員会は、6月12日、「さようなら原発1000万人署名(目標達成まで継続中)」の一部180万筆を横路衆議院議長に提出。報告集会が衆議院第一議員会館大会議室で行われ超党派の国会議員40人が参加した。



抗議集会后、市内をデモ行進した

大飯原発の再稼働反対 6月18日、札幌市内で脱原発・クリーンエネルギー市民の会、道平和運動フォーラムは、野田首相が、大飯原発再稼働を決めたことを受けて、「再稼働」の撤回を求める全道抗議集会を開いた。

また6月15日には、首相官邸で野田佳彦首相あてに7,514,066筆のうち、衆参両院議長あてを除いた分を提出した。記者会見で、鎌田慧さんが、残り250万筆の達成と「7・16さようなら原発10万人集会」の

さようなら原発1000万人署名

全国 7,530,321筆 (7月21日現在)
うち全道 435,220筆
(自治労北海道 261,582筆)
※「さようなら原発1000万人アクション」公式ホームページでオンライン署名展開中!

さようなら原発10万人集会

2012 7/16 MON (海の日)
代々木公園 イベント広場・ケヤキ並木・サッカー場



看護職員の離職防止と労働条件改善を求める署名

最終集約は 7月31日 71,239筆 (6月27日現在) 7月末まで取り組みを延長しました。

JICHIRO スケジュール

- 7月 6日(金) 第18回自治労青年女性中央大交流集会(～8日、山梨県)
- 7日(土) 臨時・非常勤連絡会議第19回総会・第28回全道交流集会(札幌市) 道本部労働安全衛生講座(札幌市) 北海道医療・ナースアクション全道総決起集会(小樽市)
- 13日(金) 日高地方本部教宣講座(新ひだか町) 自治体「農」ネットワーク第18回全国総会・北海道「農」ネットワーク第15回定期総会・研修会(～14日/音更町)
- 14日(土) 第34回全道自治体職員等女子バレーボール大会(～15日、帯広市)

道本部ホームページ
自治労北海道 ユーザー名:hokkaido
組合員専用ページは パスワード:jichi2009

「あいはら」さんのHPがリニューアル

力をあわせて、暮らしを守っていきましょう。

参議院議員 あいはら くみこ

自治労道本部は、第115回中央委員会で「あいはらくみこ」さんを推薦決定しています。

あいはらくみこ 検索

青年部学習会

「仲間と一緒」だからこそ楽しい 独自要求の実現めざせ

道本部青年部は、6月15日から17日までの3日間、札幌市・自治労会館で青年部学習会を開き、全道から20人が参加した。学習会は、「労働者のモノの見方・考え方」から原案から考へる職場の課題」をテーマに、羽場尚樹社青同北海道地本委員長が講演した。羽場さんは「労働者が主人公という視点を持つことが大事。原発事故は労働者の生命と健康は守られなかった。事実をどうみることが重要だ」と述べた。



仮想当局に、「被服費の支給」や「時間外の枠の撤廃」を求めた、模擬団交

パネルディスカッションでは、パネラー3人が単組における、独自要求闘争の取り組みを話し、連日行ったグループディスカッションでは、職場実態をもとに、「模擬団交交渉」にむけた要求書を作成し仮想当局へ提出、回答書を受け、翌日の「模擬団交交渉」にむけて「模擬事務折衝」を実施した。それを受けて、「レイアウトと見出し、写真の配置」を学び、各班で機

紙づくりに取り組んだ。最終日には、「模擬全体集会」で要求内容を周知し、全体化した上で、学習・交流・討論し、つくりあげた独自要求の実現にむけ、道本部執行部を

仮想当局として模擬団体交渉を行った。道本部青年部長は「目標にむかって仲間と一緒に運動をするからこそ楽しい。継続した討論から青年部独自要求へつなげていこう」と集約した。参加者から「充実した内容だった」「楽しかった。単組の仲間には伝えない」「単組で活かしたい」といった声が出された。

ワークライフバランス 女性自ら発信！ 女性部長・女性担当者会議



ワークライフバランスについて発言する日高地本・伊藤さん。左上写真は講師の山田さん。=6月16日、自治労会館

道本部女性部は、6月16、17日の両日、女性部長・女性担当者会議を開き86単組・総支部、122人が参加した。連合北海道女性委員会委員長の山田悦子さん(アークスグループ労連事務局次長)が「女性がイキイキと働き続けるために『女性発信！輝き宣言！』と題し講演した。

山田さんは、就職してから、新人社員の教育を担当するまでの過程を話した。特に、相手の立場になり、何が必要か見極めたいや『フレンドリーサービス』の手法は、女性部活動や職場におけるコミュニケーションの参考になった。参加者から「自治体職場では聞けない話で良かった」と感想が寄せられた。分散会では、「組合活動

あいくみの国会だより
相原久美子の国会だより 15

6月12日、国会内で「さよなら原いりスクの低い原発から転換しよう1000万人署名報告集会」が開かれ、多くの国会議員が参加しました。この動きに対し、企業や電力関係者から批判の声が上がっています。国民の命と生活が第一！

制改革を進めるべきなのです。国民の中にも、各政党内にもいろいろな考え方の人がいますが、「国民の命が第一！」「国民の生活が第一！」私は、この主張でこの先も活動します。(6月14日、東京にて)

7月は安全衛生月間
道本部労働安全衛生講座

◇7月7日(土) 13:30~17:00
◇青年会館4階ホール (札幌市北区北6西6)
◇基調講演 「自治体職場をとりまくメンタルヘルス問題の防止にむけた職場の取り組み」
講師:上野満雄自治労顧問医

組合員一丸となり奮闘中



職場だより

【釧根地本発】羅臼町職労は、2012年度から独自削減を解消する合意書を当局と交わし、今年度から回復されることになっていました。しかし、合意書を交わしたにも関わらず今年3月、削減解消前から、2012年度8%削減の提案がされました。

独自削減の経過は、2005年度5%にはじまり、2006年度から2009年度の4年間は10%、2010年度は8%、2011年度は3%でした。この間、羅臼町職労としても、住民からの理解を得るため、青年部を中心に、町内の青年団体と連携しながら町のイベントに参画し、積極的に活動を行ってききました。現在、働きやすい職場づくりと安定した生活確保を両立するため、この提案に対する、学習会を開いています。4月から回復された賃金が支払われていますが、町の財政や人件費の推移を調査・

シリーズ 子ども・子育て新システム VOL.31

最終回 事実上消滅！ 「子ども・子育て新システム」

まったく予想していなかったわけではないというのが正直なところである。民主・自民・公明の3党による社会保障・税一体改革関連法案の修正合意により「総合子ども園法案」は取り下げのうえに、「認定こども園法の改正」で対応し、「子ども・子育て支援法案」についても修正されることになりました。この結果、「子ども・子育て新システム」という用語が事実上消滅してしまっただけで、「シリーズ 子ども・子育て新システム」も、31回目と

なる今回をもって終了したいと思えます。これまで読んでいただいた組合員の皆さん、本当にありがとうございます。しかし、言葉はどろあれ、「すべての子どもが豊かに育つための制度」が必要である状況に変わりはない。課題は山積しています。今後の進展が見えますが、このテーマについては、何らかの形で引き続き取り上げていきたいと思っています。(自治体政策部長・相内利幸)

忙中余話

4月から道本部専従となり、毎日があつという間に過ぎていく。「時は金なり」というのが、本当にそう思われる。使関係制度」はおのずと、毎日があつという間に過ぎていく。改善する取り組みを進めてきたが、新制度が措置される。また、多くの仲間との連帯がより一層不可欠であることはまちがいない。組織化や組織強化・拡大は、さらに重要な取り組みとなる。しっかりと関わっていききたい。一方、中身の前に体が大きくなりつつある今日この頃にも焦りが。(鎌塚誠)